



Lecture & Concert

ヴァイオリンなどの弦楽器は今から約500年前の15世紀後半に北イタリアのクレモナで生まれました。以来、クレモナは弦楽器製作の聖地としてアマティ、ガルネリ、ストラディヴァリウスらの優れた製作者を輩出し、彼らの手による名器の音色は、演奏家やクラシック・ファンを魅了し続けています。

中世の趣きをそのままにとどめるクレモナには、今なお多くの製作者が生活していますが、秋から冬にかけては濃い霧に包まれ、湿度が高く、決して楽器づくりに適している気候とはいえません。そのクレモナが弦楽器製作の聖地となり得た歴史的背景や地理的条件について、名工アマティ、ガルネリ、ストラドらがどのような体系で製作活動をしていたか、彼らの楽器が名器と称される所以など、28年間にわたるクレモナの製作活動に裏打ちされた松下氏の解釈によって、さまざまな謎が解き明かされます。

また、樹齢数百年のモミの木の中から、ふさわしい素材のみが厳選され、さらに製作者の技術によって楽器として蘇生し、音を奏でるまでの長い工程を、実際の製作過程のスライド写真を紹介しながら解説します。

ヴァイオリンという小さな箱の中に、いかに多くの自然の恵みと、美しい音を追い求めた人間の歴史、知恵、洗練された技術が込められているか、それこそが松下氏自身の感じる弦楽器の魅力であるといえます。



Photo: MARCO DELLA ROSA

松下 敏幸 [マエストロ・弦楽器製作者]
レクチャー&コンサート

音を創る ~ストラディバリ、
クレモナの伝統を今~

2010.5.4 (TUE) 14:00開演(13:30開場)

ひめぎんホール(愛媛県県民文化会館) サブホール

チケット/全席自由

前売=一般2,500円/学生1,500円

当日=一般2,800円/学生1,800円 *就学前のお子様のお入りはご遠慮ください。

[お申し込み・お問い合わせ] Tel&Fax:089-925-3517 E-mail:miim57345@y6.dion.ne.jp

[主催] 松下敏幸レクチャー&コンサート実行委員会 [共催] 財団法人 愛媛県文化振興財団(申請中)、楽友協会えひめ [後援] 愛媛県、愛媛県教育委員会、愛媛新聞社、NHK松山放送局、南海放送(以上申請中)

松下敏幸弦楽器展

松下敏幸氏が製作した弦楽器(ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ)を実際に手に取り、ご覧いただけます。また、経験者の方は試奏することもできます。

◎日 時:平成22年5月2日(日)~8日(土) 10:00~18:00
(最終日は16:00からサロンコンサート)

5月4日(火)はレクチャー&コンサートのためお休みです。

◎場 所:萬翠荘 松山市一番町3-3-3 Tel:089-921-3711

◎入場料:500円(当日、受付にてお支払いください。)

※レクチャー&コンサートのチケットをお持ちの方は無料で入場いただけます。

■参加資格:試奏する楽器の演奏経験のある方(事前申し込みが必要)

■申し込み方法:①氏名 ②年齢 ③住所 ④電話番号 ⑤試奏を希望する楽器 ⑥楽器の演奏経験年数 ⑦レクチャー&コンサートチケットの有無以上を明記の上、電話・Fax・E-mailのいずれかの方法でお申し込みください。Tel&Fax089-925-3517

E-mail:miim57345@y6.dion.ne.jp

■申し込み期間:平成22年4月5日(月)~4月30日(金)

■注意事項:①弓・松脂など必要な物は個人のお持ち物です。

②試奏は会場でのみ可能です。いかなる場合も持ち出しはできません。

③会場の混雑具合により入場をお待ちいただく場合があります。



お申し込み・お問い合わせ

松下敏幸レクチャー&コンサート実行委員長 森田功
愛媛県松山市山越1-10-25

Tel&Fax:089-925-3517

E-mail:miim57345@y6.dion.ne.jp



音を創る Lecture & Concert

～ストラディバリ、クレモナの伝統を今～

一般的には「何を誰が演奏するか」という点に注目が集まりがちな演奏会に、楽器製作者の視点を加えることによって、音楽を違った角度から楽しむことを第一の目的としています。また、合理化が進み、大量生産が主流となっている現代に、弦楽器製作を通して、人の手による仕事=「ものづくり」の真の価値、伝統を受け継いでいくことの大切さを伝えたいと願っています。

松下敏幸氏による演奏の様子

I. レクチャー

現代のイタリア・クレモナを代表する弦楽器製作者、マエストロ・松下敏幸氏を講師として、弦楽器の歴史や魅力、製作についてのレクチャーを聴いていただけます。そして、その伝統とこだわりを持って製作された氏の楽器は、その後演奏家の手に渡りどのようにして“音”を創り出してゆくのか、「一般の方には体験することの出来ない大変興味ある」今日の出演者との会話と実践を観て聴いていただけます。



マエストロ・弦楽器製作者
松下 敏幸
MATSUSHITA Toshiyuki

松下敏幸氏による演奏の様子

II. コンサート

名器ストラディバリウスを産んだクレモナ(イタリア)に工房を構え、国際的に活躍するマエストロ・弦楽器製作者である松下氏が製作した楽器、ヴァイオリン2本にヴィオラ、チェロという弦楽器4本にピアノを加えて、これら5つの楽器のさまざまな組み合わせによりコンサートを構成します。その時代背景にある音楽の発展についても聞き手に感じていただけるようなプログラムです。

- | | |
|------------|--|
| 1. ハイドン | ：弦楽四重奏曲　ハ長調op.76　No.3「皇帝」より第2楽章 |
| 2. J.S.バッハ | ：2つのヴァイオリンのための協奏曲　二短調　BWV1043より第2楽章 |
| 3. モーツァルト | ：ヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲　変ホ長調　K.364より第3楽章 |
| 4. サン＝サーンス | ：白鳥～組曲「動物の謝肉祭」より |
| 5. バガニーニ | ：カンタービレ　二長調　op.17 |
| 6. 山田耕筰 | ：からたちの花 |
| 7. クライスラー | ：ウィーン奇想曲　op.2 |
| 8. シューマン | ：ピアノ五重奏曲　変ホ長調　op.44-4より第1楽章 |

※曲目、曲順は変更になる場合がございます。(終演予定16:30)

1957年兵庫県生まれ。1982年イタリア、クレモナに渡り、グラン・マエストロの工房でヴァイオリン製作を学ぶ。並行して82年～87年ロンバルディア州立学校、弦楽器修理課程、クレモナ国際ヴァイオリン製作学校卒業。1987年労働許可を取得、Via Milazzo 20 に工房を構える。1998年より国立クレモナ・ヴァイオリン製作学校、マスターコース最終学年に日本人初めてのマエストロ講師として招かれる。その製作された楽器には、アマティ、ストラディヴァリウスをはじめとする古典イタリアン弦楽器への深い研究の成果が反映されており、音色の明るさと豊富な倍音の魅力が日本を始め欧米で高い評価を得ている。

1988年　第5回クレモナ・アントニオ・ストラディヴァリ国際製作コンクール、ヴァイオリン・チェロ部門それぞれ銀メダル受賞。
1994年　第3回イギリス、マンチェスター開催、RNCMチェロ国際製作コンクール入賞。
1996年　第12回アメリカ・ニュー・メキシコ開催、VSAヴァイオリン国際製作コンクールヴァイオリン部門優勝、ゴールドメダル。
2000年　第14回アメリカ、シンシナティー開催、VSAヴァイオリン国際製作コンクールケルテット製作部門3位入賞。
2001年　"ENTENTE INTERNATIONAL SOCIETY OF VIOLIN AND BOW MAKERS "アンタン国際弦楽器・弓製作者協会 "EILA" のメンバーに任命される。
2004年　第3 回バリ国際弦楽器製作コンクール、ヴァイオリン部門音響最優秀賞、ヴィオラ部門2位、銀メダル受賞。
2006年　第11回クレモナ、アントニオ・ストラディヴァリ国際製作コンクールヴィオラ部門2位、銀メダル受賞。

今までに修理・調整した代表的な楽器は、アントニオ、ストラディヴァリウス"Park"1717年、同じく"LEDY LEY"1713年、及びジョゼフ・ガールネリウスデル・ジェズ"JEAN BECKER"1732 年。チェロでは、ジョセフ・ガールネリウス1698年が挙げられる。

Profile



浦川 宜也 〔 ヴァイオリン 〕 松下敏幸 2004年製作 ARCO所有

1940年生まれ。東京藝術大学入学の年に、西ドイツ政府のTAAD奨学金を得て渡独。ベルリンでM.シュヴァルベに、ミュンヘンでW.シトロスに師事。ミュンヘン国立音楽大学を首席で卒業し、1964年大指揮者J.カイルベルトに認められ、バンベルク交響楽団第一コンサートマスターを1969年まで務める。1970年代はソリストとして独立し、西ドイツ、オランダ、スイスの主要オーケストラと共演。1974年渡独後初のリサイタルを行い、《ヨーロッパの伝統を受け継ぐ新しいタイプのヴァイオリニスト》として注目を集める。1981年に帰国。東京藝術大学助教授を経て、1984年より教授として後進の指導にあたるかたわら、精力的にレコードやCD録音を行い、バルトーク・無伴奏ソナタを皮切りに4大協奏曲、ベートーヴェン・ソナタ全曲、J.S.バッハ、モーツァルト、ブラームスのほぼ全てのヴァイオリン作品の収録を成し遂げる。海外の演奏活動は、ワシントン国会図書館でクライスラーのガールネリを奏するなど、USA、オーストラリア、中国、欧州各地に及ぶ。また楽譜の校訂も多数手がけ、内外のセミナー、コンクールの審査など、国際的に活動する。現在、東京藝術大学名誉教授、東京音楽大学大学院客員教授。
〔Photograph:Naoaki Shiraiwa〕

柿沼 麗子 〔 ヴァイオリン 〕 松下敏幸 2009年製作 Musa使用

東京音楽大学および同大学院修士課程修了。在学中、特待生奨学金、英国王立音楽院短期特別留学奨学金を得る。大学院修了後、2003年より英国王立音楽院ポストグラジュエイト・ディプロマコースに奨学金を得て留学。同音楽院内コンクール「マックス・ピラーニ・トリオプライズ」第3位入賞。2006年「J.A.ベアー・ソロバッハ・コンペティション」ファイナリスト。同音楽院修了時「Dip RAM賞」受賞。イギリスにおいてセント・マーティン・ウィズイン・ラドゲート教会、ショトホールなどで定期的リサイタルを開催し、好評を博す。またソロ活動だけでなく、2005年にはオーストリアで行われたインターナショナル・オーケストラ・インスティテュート・アッターガウに参加し、リッカルド・ムーティ指揮の下ザルツブルグ音楽祭にて演奏する。その他、BBCスコティッシュ交響楽団、BBC ウェールズ交響楽団、イングリッシュ・ナショナル管弦楽団、アンサンブル・ムジクス室内楽団、ヴェルダンディ・カメラータなどでメンバーとして演奏する。また、2007年に帰国後はフリーランスとしてオーケストラなどで活躍。2008年11月には東京・目黒パーシモンホールにてリサイタルを行い、好評を博す。これまでにヴァイオリンを故・伊達良、山岡耕筰、大谷康子、浦川宜也、モーリス・ハッソソ、室内楽を兎東俊之、浦川宜也の各氏に師事。



大野かおる氏による演奏の様子

大野 かおる 〔 ヴィオラ 〕 松下敏幸 2004年製作 Orseo使用

5歳よりヴァイオリンを始め15歳でヴィオラに転向する。東京芸術大学付属音楽高校、同大学を経て同大学院修了。在学中より活発な演奏活動を開始。学内のモーニングコンサートでは芸大フィルハーモニアとダヴィッドのヴィオラ協奏曲を日本初演。ターティス国際ヴィオラコンクール（イギリス）では2つの特別賞を、東京国際音楽コンクール「室内楽」では第一位入賞、併せて2つの特別賞も受賞する。2004年の日本音楽コンクールではフルート部門本選会の共演に対し審査員特別賞がおくられる。ソロと室内楽を中心に国内外で幅広く活躍。これまでにイヴリー・ギトリス、ユーリ・バシュメット、アルブレヒト・マイヤー、等々著名なアーティストと共演。別府アルゲリッチ音楽祭、宮崎国際音楽祭など国内の音楽祭のほか、ヨーロッパ、アジアなどの音楽祭にも出演。NHK-FM放送にも度々出演している。CD録音多数。現在、アンサンブルoftウキョウ、アルファ弦楽四重奏団などのメンバーを務める。東京芸術大学、東京音楽大学、洗足学園音楽大学、エリザベト音楽大学などで指導、大阪芸術大学客員教授も務める。

嶺田 健

〔 チェロ 〕 松下敏幸 2002年製作 Rosa所有

10才で桐朋学園「子供のための音楽教室」に入室、同時に斎藤秀雄氏に師事。同学園高校、大学卒業。卒業演奏会に出演、また読売新聞社主催による新人演奏会において演奏する。卒業後、奨学生としてジュリアード音楽院に留学、チェロをハーヴィー・シャピロ氏 (Harvey Shapiro)、ピアノ室内楽をフェリックス・ガルミア氏 (Felix Galimir)、弦楽四重奏をサミエル・ローズ氏 (Samuel Rhodes)、オーケストラスタディをローン・モンロー氏 (Lorne Munroe)に師事。1978年よりニューヨーク州バッファロー交響楽団のアソシエイト・プリンシパル (Associate Principal Cellist)として務める傍ら、N.Y.州立大学の音楽部においても指導にあたる。また同大学の主催によりサイタルを開く。1983年、大阪フィルハーモニー交響楽団の招きにより帰国。首席奏者として在籍。1987年より、読売日本交響楽団のソロチェロ奏者となり現在に至る。カザルスホール、東京文化会館、バリ日本文化会館などの主催によりコンサートなど、数多くの室内楽にも幅広く出演。また、チェロ・アンサンブル・サイトー、及びサイトー・キネン・オーケストラのコンサート並びにレコーディングセッションにも参加している。



竹本 佳代

〔 ピアノ 〕

愛媛県松山市生まれ。愛知県立芸術大学ピアノ科卒業。同大学卒業演奏会出演。第22回愛媛新人演奏会出演。ドイツミュンヘン国立音楽大学大学院ピアノ科マイスタークラス入学。1988年旧東ドイツ国際管楽器コンクール最優秀伴奏賞受賞。1989年ウェーバーピアノコンクール特別賞受賞。同大学院室内楽科マイスタークラス入学。1990年ブゾーニ国際ピアノコンクール　セミファイナリスト。その後ドイツのウルムやフェーリングゲンなどでコンサート。東京(津田ホール)、名古屋(ザ・コンサートホール)、松山、宇和島にてバイオリンとデュオリサイタル。1999年から2002年までの各年、埼玉県越谷市にてジョイントコンサートを実施。その他バイエルン放送局に出演等、ピアニストとして後進の指導にあたる傍らソロ、室内楽、オペラの伴奏などに幅広く活躍。これまでに播本枝末子(三恵子)、宮原峠子、クラウス・シルデ、アレキサンダー・フォルコフ、エックार्ट・ベッシュ各氏に師事。マイスタークラス(ピアノ)ディプロム、マイスタークラス(室内楽)ディプロム取得。